

指定管理者制度導入施設 管理運営状況(令和7年度)

[illegible]

指定管理者管理運営状況（令和4年度～令和7年度）						
指定管理者管理運営状況						
年度	指定管理者			指定管理期間		
R7年度	公益財団法人滋賀県陶芸の森			令和3年4月1日から令和8年3月31日まで		
R6年度						
R5年度						
R4年度						
成果情報		R4	R5	R6	R7	備考
利用可能日数(単位:日)		280	307	305	307	
年間利用人数(単位:人)		346,154	382,274	352,512	314,165	
1日あたり利用人数(単位:人/日)		1,236.3	1,245.2	1,155.8	1,023.3	
年間収入(単位:円)		221,954,464	255,266,143	279,989,011	226,781,081	
1日あたり収入(単位:円/日)		792,695	831,486	917,997	738,701	
収入・支出実績 (単位:円)		R4	R5	R6	R7	備考
収入①		221,954,464	255,266,143	279,989,011	226,781,081	甲賀市信楽産業展示館収入除く
施設利用収入		16,745,065	25,690,164	25,970,345	16,718,417	
指定管理料		175,538,000	174,175,000	177,818,000	182,386,000	
その他収入		29,671,399	55,400,979	76,200,666	27,676,664	
支出②		223,958,500	246,558,179	271,445,727	227,508,246	甲賀市信楽産業展示館支出除く
人件費		94,286,134	96,763,031	95,962,741	98,322,968	
施設管理費		69,283,822	66,886,216	73,110,811	70,389,078	
事業費		60,388,544	82,908,932	102,372,175	58,796,200	
収支 ①-②		-2,004,036	8,707,964	8,543,284	-727,165	
モニタリング実施状況(令和7年度)						
報告書の別	内 容					
年度報告	年次事業報告書(令和8年4月報告)					
月例報告	月例業務報告書(毎月報告)					
実地調査	令和7年11月、令和8年2月 実施					
実地調査等の概要	【令和7年11月】 指定管理者モニタリングマニュアルに基づき、実地調査を実施 備品の現物確認を行い使用用途などについて説明を受けた。 メンテナンス日報や警備日報、業務日誌の現物確認を行い、管理業務が適正に実施されていることを確認した。 【令和8年2月】 令和7年11月と同様に実地調査を実施 備品の現物確認を行い使用用途などについて説明を受けた。 メンテナンス日報や警備日報、業務日誌の現物確認を行い、管理業務が適正に実施されていることを確認した。 【その他】 年次事業報告書、月例業務報告書により、管理業務が適正に実施されていることを確認した。					
利用者ニーズの把握						
手法・実施時期	展覧会観覧者(会期毎)、陶芸体験講座参加者(年間)、イベント開催時来場者(10月)に対する利用者満足度調査の実施					
実施内容	来園者等へのアンケート調査					
調査結果	○展覧会(大変満足・満足):88.4% ・滋賀にこれだけたくさんの素晴らしい焼き物があつたとは知らなかった。他県から来たので、料理も知らないものが多かった。陶器に食べ物が盛り付けられた写真が添えられていて、実際に使われているイメージが分かり良かった。等 ・他館の民藝展を観た後に、陶芸の森の展示を観たが、ここの展示はさらに深くまた新しい関係性へとつながっていくところが興味深かった。民藝、陶芸という職人の世界をコミュニティデザインの関係から人々に伝える、つなげるという小さな世界から大きなものへという関係が都市にも置き換えられる感じがした。等 ・独特の世界観、朱色の中に青・緑が映える型、デザイン、細部までこだわりを感じた。作品には使う人の幸せや思い出してほしい教訓なども込められていることも伝わってきた。等 ○陶芸体験講座(満足):83.2% 縛りがなく、ある程度自由に作陶することができ、個数も裁量があるので、よいと思う。土に触れる時間も長く、一般的な作陶教室よりも学べるものが多かった。等 ○イベント開催(とても良い・良い):93.8% 毎年来ても、新しい発見や作品との出会いがあり、とても楽しいイベントだと思う。天候が良くなかったので残念。等					
工夫・成果のあった点、運営上の課題						
・令和7年度は陶芸の森開設35周年ということで、記念特別展や陶芸の森フェスティバルなどの記念事業を実施した。各事業の利用者満足度においては、概ね高い評価を得ている。今後もアーティスト・イン・レジデンス事業や陶芸体験講座の実施により、人的交流を推進するとともに、展覧会事業においては「集客重視型」、「地域重視型」、「収蔵品活用型」の展覧会をメリハリをつけて開催し、また各種イベントの開催・誘致等にも取り組むことで、利用者の拡大および満足度の向上に努める。 ・陶芸の森は開設から35年が経過し、施設や設備の不具合等の発生の増加や、昨今の物価や人件費の上昇もあり、一般管理費用の増加が負担となっている。						